

【J C運動とは】

青年会議所は、何をなすべきなのでしょう。それは、J C I M i s s i o n（青年会議所の使命）にある、青年に「発展と成長の機会を提供する」そして、青年が「まちをより良くする運動をつくることができるようになる」ことです。

当初、私はこの言葉の意味を、なかなか理解することができませんでした。しかし、過去のある出来事がきっかけとなり、その意味がようやくわかったのです。

2014年、LOMの委員長を務めた際、例会企画の責任者を担当することになりました。当時は、存続できなくなる自治体「消滅可能性都市」が全国で話題となり、それぞれの地域がこの社会課題をどのように解決するか走り出した頃でした。

私は、J Cを通じてこの課題解決に貢献したいと思い「私たちはどう向き合う！？ふるさとに迫る人口減少問題」のタイトルで、有識者によるパネルディスカッション公開例会を開催しました。今でも、課題の捉え方は間違っていなかったと思います。

例会の約1週間前、300名程入る会場に、メンバーも含めわずか100名弱の動員予定であることがわかり、それから慌てて知り合いや社員に声をかけました。結果的には、200名弱の参加を頂き、その後の報告議案を協議する理事会では「みなさんのおかげで動員が成功しました」と感謝を伝えました。一定の参加者数を確保できたことに、少し誇らしかった自分がいたのです。

しかし、その企画はまちの役に本当にたったのでしょうか。市民に、人口減少社会の到来を警鐘するための例会は、それ自体には意味があったかもしれませんが、この1度限りの例会企画が、社会に希望をもたらす変革の起点となったのでしょうか。私は、このプロジェクトは失敗だったと思っています。もちろん、共に汗を流したメンバーや、参加下さったパネリストをはじめ全ての関係者に深く感謝していますが、私の力不足によって、まちをより良くする運動をつくることができませんでした。

私は、この少しほろ苦い経験から、「自己都合で場を取り繕い、手法が目的化し、社会を変えたのかよくわからない」プロジェクトのことを、「J Cごっこ」と呼ぶことにしました。これは、J Cごっこで満足してしまった経験を自戒するための言葉です。私は、例会を企画できるという素晴らしい機会を、まちの発展に活かすことができなかったのです。

【成長とは、前提の獲得】

私たちは、J C運動の意味を、改めて見つめ直す必要があります。本当の意味で、地域社会

の発展に貢献できているのであれば、J C運動は必ず大きなムーブメントとなって、社会を変え続けていくはずですが、それができなければ、かつての私のJ Cごっこのように、その場限りで終わってしまいます。だからこそ、私たちは社会を変え続ける仕組みをつくらなければならないのです。

では、どうすればそのような仕組みをつくることができるのでしょうか。それには「成長」が必要です。J Cで獲得できる成長とは、単なる「スキルアップ」のことではありません。読めない会計が読めるようになること、できなかった英語が話せるようになること、これも確かに成長です。そのようなスキルアップは大切ですが、しかしそれらのスキルではムーブメントは起こせません。ただ、会計や英語が得意な人になるだけです。では、成長とは何か。それは、損得だけで物事を考えず、人を愛し、人のために無条件で奉仕できるようになること、です。

他者は、基本的にわがままです。時に、あなたにとって不都合で不愉快な存在であることもあるでしょう。もちろん、あなたの人生を支え、豊かにしてくれる存在でもあります。しかし、J Cに所属するあなたは、どこかの誰とも知らない、あなたのまちに住む誰かのために奉仕をしようというのです。そんなことが、自分の幸せだけを前提としている人に可能でしょうか。人に無条件で奉仕する、こんな非合理的で無茶苦茶なことが、利己的な人間に可能なわけがありません。

このように、人のために自己を犠牲にするような、非合理的なことを可能にするのは「愛」しかありません。愛を当たり前のこととして受け入れ、自分以外の人に奉仕できるようになること、愛を前提として社会活動ができるようになることが、J Cにおける成長です。

経済的発展による利益の追求は、間違いなく必要です。私たちJ Cメンバーは、青年経済人としてその責務を負います。しかし、経済的発展をただ追い求めれば良いというわけではありません。それを追い求めることによって、人を思いやる愛がなくなっていくのだとすれば、経済的発展が、社会的発展に悪影響を与えているということになります。私たちは、経済をリードしながら、互いを思いやることができるようになる社会的発展も牽引しなければならないのです。

思い起こせば、愛を前提とした無条件の奉仕が大切だと気が付いたのは、J Cでの出会いからでした。2013年、ブロック協議会の総務委員長を務めた際、入会3年目の私はそれまで議案というものを見たことがありませんでした。ハイパーリンクもアジェンダも、背景も目的も見ただけで聞いたこともない中、「他の委員会の議案をチェックし、君も議案を書くように」と指示があったのです。

まさに、J Cど素人とも言える私は途方に暮れました。役割を受けてはみたものの、最後まで責任を果たせるのか不安で一杯でした。しかし、その時、私を助けてくれるメンバーが現れました。直属の上長である運営専務です。彼は毎日、私のために、議案の見方や運動のつくり方等、寝る間も惜しんで懇切丁寧に教えてくれました。ほぼ初対面からチームを組んだにもかかわらず、そして、決してそこから経済的な利益が互いに生まれるわけではないにもかかわらず、ただただ私の成長を願って自分の大切な時間を使ってくれたのです。

私はこの体験から、J Cでは、人に無条件で奉仕することが前提になっていることを知りました。愛が前提になっているのです。以来私は、自分にできることであれば、見返りを求めず人に奉仕するようになりました。この時、私はJ Cの前提を受け継ぐことができたのだと思います。このような経験は、みなさんにもあるのではないのでしょうか。

改めて、J Cにおける成長とは、愛という前提を受け継ぎ、人に無条件で奉仕ができるようになることです。

私はこの受け継いだ前提を、一人でも多くの人にお渡ししていきたいと思っています。一方、今は自分のため、身近な人のためにJ Cに取り組むメンバーもいらっしやると思います。それも、本当に尊いことです。しかし、当初は自分のためだけに入会したメンバーも、J C運動に力を尽くす中で、少しずつ自分自身の価値観の範囲が広がります。いつの間にか、誰かのために役立ちたい、私のまちをより良くしたいという社会的使命を帯び始めます。それがJ Cの魔法です。焦らずじっくり腰を据え取り組んでいきましょう。そして、前提である愛を共に受け継ぎ、広げていきましょう。

【幸せを生み出し続ける「装置」をつくる】

みなさんもお存じの通り、実際に、全国の多くのJ Cメンバーが、運動を起こし、社会課題解決の仕組みをつくり、持続可能な地域づくりに貢献しています。そのような、人々を幸せにする仕組みのことを、あえて「装置」と呼びたいと思います。

装置と呼ぶ理由は、私たちがつくる運動は社会を自動的に良くし続ける機械のようなものだからです。装置は、ルール、慣習、ヒト、モノ、カネ等が集まって自走している仕組みのことです。

例えば、地域のお祭りに参画し市民と共に故郷を盛り上げる活動や、著名な講師を招いての講演等は、多くの人から感謝され大変な評価を頂いています。それも、社会にとって必要とされる大切なJ C運動です。しかし、その日に見た笑顔は、持続的なものではありません。